

近畿大学大学院工学研究科 学生員 ○谷田 成司

近畿大学理工学部 正会員 三星 昭宏

1. はじめに

現代の社会では、都市施設の整備に関して画一化・効率化を重視してきた。しかし、人々は次第に生活空間にゆとりを求める、あるいは、地域の個性を重視するようになってきている。機能重視の都市計画では人々の都市に対する思い入れなどが計画に反映されない恐れがある。そのため、地域イメージを把握して地域の個性、あるいはアイデンティティを考慮し、都市計画で重視されるようにする必要がある。そこで、土井は鉄道沿線という広範囲で地域イメージを分析している¹⁾。しかし、本研究では枚方市という都市を対象とし、同様の方法を取りながらアンケート調査データをもとに、想起率、連想確率、SD 法、因子分析等により、都市の地域イメージを明確化することを試みた。

2. 調査の概要

枚方市をⅠ地区からⅦ地区に分類し、地区ごとの地域イメージと SD 法 (Semantic Differential Method) によるアンケート調査を実施した (有効サンプル数 127 人)。アンケート調査表については、枚方市のイメージに類似していると思われる普通名詞と固有名詞を 5 つのジャンル (歴史・文化、自然、都市施設、産業社会、交通施設) からそれぞれ選択してもらった。SD 法については、調査対象者が 5 つずつ選択した普通名詞と固有名詞、更に「枚方市」について形容詞対 8 対、評価尺度 7 段階で評価して頂いた。

また、近隣都市である寝屋川市、交野市、京田辺市、高槻市、八幡市にも同様のアンケート調査を行い (有効サンプル数 73 人)、外から見た枚方市のイメージについても比較、分析した。

3. 想起率・連想確率によるイメージ分析結果

調査結果に基づき、普通名詞・固有名詞に関する想起率・連想確率を算定し、イメージマップを作成した。枚方市全体と近隣都市の想起率上位 5 位を表 1 に、枚方市全体のイメージマップを図 1 に示す。

まず、枚方市全体について見ると、

想起率は全体的に分散されている。「河川」は「淀川」、「天野川」、「穂谷川」を指すと考えられる。普通名詞についてみると、「公園」、「バス」、「渋滞」を中心に連想が広がっている。固有名詞に比べ普通名詞の河川は想起、連想とも小さくなっている。固有名詞では、「淀川」、「国道 1 号」を中心に連想が広がっている。

表1 想起率上位5位

	順位	枚方市全体	想起率 (%)	近隣都市	想起率 (%)
普通名詞	1	渋滞	78.3	遊園地	89.9
	2	住宅地	76.6	河川	86.7
	3	河川	70.5	渋滞	75.4
	4	遊園地	64.2	公園	61.1
	5	史跡	61.8	デパート	60.9
固有名詞	1	国道1号	100.0	枚方菊人形	100
	2	枚方菊人形	88.4	淀川	91.3
	3	淀川	85.1	ひらかたパーク	89.9
	4	京阪電鉄本線	81.0	国道1号	76.8
	5	山田池	76.9	くらわんか花火大会	68.1

近隣都市は想起率に偏りがある。「河川」は「淀川」のみを指すと思われる。普通名詞では、「河川」、「公園」、「駅」を中心に、固有名詞では、「淀川」、「国道 1 号」、「京阪電鉄本線」を中心に連想が広がっている。

4. SD 法による分析と因子分析結果

普通名詞 SD 想起率の上位と、その名詞に関係すると思われる固有名詞についてイメージプロフィール (以下 IP) を作成し、因子分析を行った。また、街全体のイメージを知るため「枚方市」についても IP を作成した (図 2)。「枚方市」は一般的な日常生活圏のイメージがもたれているため、他の名詞とは違い極端な評価がされにくいと考えられる。

「住宅地」については、固有名詞の IP から個々に特徴を持っていることが読み取れたが、普通名詞「住

宅地」は一般的なイメージとなるため特徴的でない。

普通名詞はSD 想起率上位 8 位、固有名詞では上位 16 位について、さらに、その両方を用いて因子分析を行った。両方を用いた結果では、「枚方市役所」、「史跡」、「伝統的街並み」、「京街道」は重厚なイメージ、「くずはモール街」はおしゃれでモダン、「ひらかたパーク」や「ビオルネ」については、モダンなイメージが強いということができる。「くらわんか花火大会」は、親しみやすく、にぎやかなイメージがもたれているようである。また、「国道 1 号」と「渋滞」は伴にやばったイメージであり、幹線道路の中でも「国道 1 号」は特に渋滞が多く、枚方市のイメージに深く関係していると考えることができる。

5. おわりに

都市とは異なり、そこに住み生活を営む場となる「まち」であることがわかった。因子分析結果から想起率の高かった「河川」、「淀川」、「枚方菊人形」をはじめ多くの名詞が図の中心付近に点在しており、枚方市はイメージのあいまいなまちであると考えられる。歴史的側面から見ると、京都―大阪間を通る東海道の宿場町として栄えたが、渋滞が目立ち、＜歴史・文化＞と＜交通施設＞のつながりが少なくなっている。

＜参考文献＞

- 1) 土井勉：地域計画策定のための地域イメージの構造分析に関する研究，京都大学博士学位論文，1996

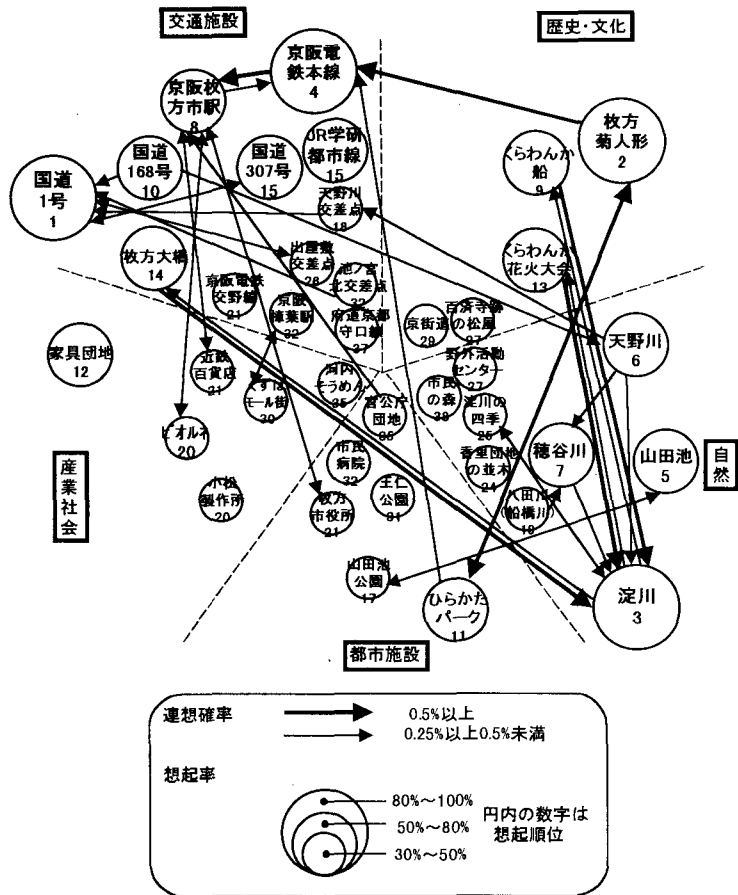


図1 枚方市全体イメージマップ

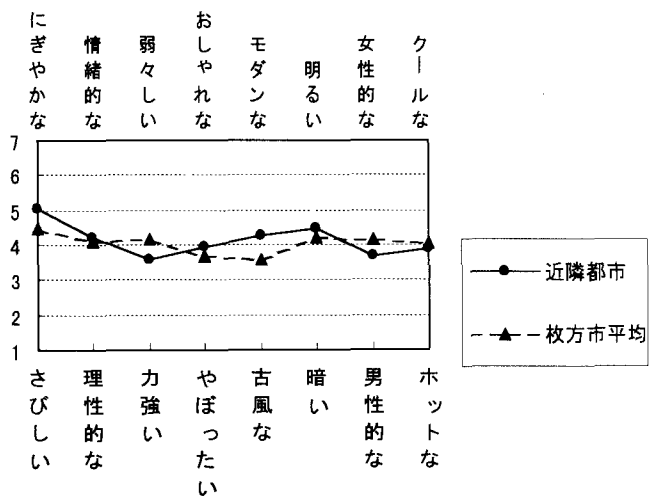


図2 枚方市イメージプロフィール